

[Original Paper]

The working situation of health nursing students with respect to their future perspective

Mariko Shibata* and Masumi Kono*

* Aino Gakuin College, Department of Community Health Nursing

Abstract

We have examined the results of the questionnaires answered by the students of Department of Community Health Nursing (CHN) at Aino Gakuin College, and considered a possible future plan for their job situation. Many of the students, after finishing the course of nursing sciences, had experiences as nurses, but further studied CHN. Therefore, more than half of the graduates of CHN used to have jobs as CH nurses at municipal health centers and similar facilities, but its number has recently been decreasing. One of the reasons is that the municipal facilities appoint only few graduates, although many of the graduates wish to work at such facilities. It is therefore strongly hoped that those facilities would hire much more graduates who have been educated as CH nurses.

Key words : job situation, career, education of community health nursing

保健師教育と専攻科修了生の就業状況について

柴 田 真理子*, 河 野 益 美*

【要 旨】 専攻科修了生に対する質問紙調査結果および就業状況調査表から、保健師教育の今後のありかたを考察した。専攻科学生は看護師などの就業経験を持つ者が多く、修了後の就業先は多岐にわたっていた。そのうち修了後保健師として就業するものが半数以上であったが、年々その数は減少し看護師として就業する者の割合が増加している。その理由の一つは、大学が増加して保健師の免許を有する者の総数は増加しているが、保健所・市町村が新規に保健師を採用する人数は1人、多くて若干名という狭き門である。修了生は保健師の資格を取得後は、保健所や市町村という公衆衛生分野で活動したいという希望を持つ者が多いので、保健所・市町村が採用人数を多くしてほしい。

キーワード：就業状況、就業歴、保健師教育

I はじめに

本学専攻科は平成5年4月に開設され、平成15年4月現在、第11期生が在籍している。平成5年から平成13年の間、全国の保健師教育機関のうち、養成所が45校から38校に減少したが、短大専攻科は13校から21校へ、大学は19校から89校へ増加した(全国保健婦・士教育機関協議会20年のあゆみ 2001年)。特に大学の増加に伴い保健師の免許交付数は倍増している。かつては養成所が保健所・市町村など行政に勤務する保健師の供給源となっていたが、大学の増加に伴い、従来の地域で必要な保健師を充足するという保健師教育のあり方が大きく変化した。また、保健師の就業の場が保健所・市町村に限らず在宅看護や学校、産業などの領域も包括するため、保健師教育課程における科目の名称も公衆衛生看護学から地域看護学が主流となった。

平成9年の改正カリキュラムは、地域看護学を「市

町村および保健所を中心とした保健予防活動に焦点を置いた公衆衛生看護と、在宅療養者に焦点を置いた継続看護を含む」と明示し、この地域看護学を学んだ保健師が、保健所市町村だけでなく、事業所・学校・病院・福祉施設など様々な場において活動するよう期待されていることを強調している。

以上の情勢に基づき、今後の保健師教育のあり方を検討するため、本学専攻科修了生第1期生から第8期生を対象に就業状況調査を実施した。その結果、本学専攻科の特色は就業歴のある入学生が多いことで、学生の卒業後の就業先は多様で、特に修了生の就職先として病院看護師となるものの比率が年々高くなってきていることが明らかになった。この事実は、保健所・市町村における保健師の新規採用枠が1人ないし若干名と少なく、採用試験の倍率がかなり高くなっていることが要因であることを示している。今後、保健師が訪問看護や福祉施設など様々な活動の場で専門性を発揮できるための課題を検討したのでここに報告する。

* 藍野学院短期大学

II 対象と方法

1 修了生対象の質問紙法

本学専攻科第1期から第8期修了生273名に対し、2002年4～6月に記名式質問紙を郵送した。質問項目は1現在の就業状況と職種・勤務年数、2卒業直後の就業状況と職種、3専攻科入学前の就業状況であった。

2 平成11年から15年の保健師学校養成所卒業生就業状況調査票結果

III 結果

質問紙の回収は273名中148名(54.2%)で、就業状況は以下の通りであった。

1 入学前の就業状況(表1)

就業歴のないものは58名(39.2%)、あるものは90名(60.8%)で、就業歴をもつ者の内訳はほとんどが看護師(84名, 93.3%)であった。残りの者は准看護師、助産師、教員、寮母であった。勤務年数は2～5

表1 就業歴の職種と勤務年数 単位：人

職種勤務年数	～1年	2～5年	6～10年	11年～	計
看護師	12	50	17	5	84
准看護師		1	1		2
助産師		1		1	2
教員			1		1
寮母			1		1
計	12	52	20	6	90

年が最も多く52名(57.8%)、6～10年が20名(22.2%)、1年以下は12名(13.3%)であった。11年以上の経験を持つ者は看護師5名、助産師1名であった。

2 専攻科修了直後の就業と現在の就業状況

1) 入学前に就業歴をもたない修了生の状況(表2)

専攻科修了直後の就業先は保健所・市町村が最も多く28名(48.3%)で、病院26名(44.8%)であった。

就業先の変更の有無について修了直後と現在を比較すると、保健所・市町村保健師で就業した者は28名中22名(78.6%)が勤続していた。病院に就業した者は26名中14名(53.8%)は勤務を継続していた。現在就業していないものは8名で、そのうち5名は修了直後には病院に勤務していた。

2) 入学前に就業歴をもつ修了生の状況(表3)

修了直後の就業先は保健所・市町村が最も多く44名(48.9%)、次いで病院18名(20.0%)、その他9名、福祉施設7名、学校4名で、彼らの就業先は多岐にわたっていた。就業しなかった者も8名あった。

就業先の変更の有無について修了直後と現在を比較すると、保健所・市町村に就業した者は44名中32名(72.7%)が勤続していた。病院に就業した者は18名中10名(55.6%)が勤続していた。現在就業していない者は11名で、そのうち5名は修了直後の勤務先は保健所・市町村であった。

表2 就業歴のない修了生の状況

単位：人

卒業時就業先	行政 (保健所・市町村)	病院	福祉	学校	その他	就業なし	計
現在の就業先							
行政・保健師	22	6					28
行政・看護師	2						2
病院・保健師		2					2
病院・看護師		12					12
福祉・保健師			1				1
福祉・看護師							
ケアマネージャー							
看護学校等教員							
養護教諭							
大学保健室等保健師							
その他・保健師	2	1			2		5
その他・看護師							
その他							
就業なし	2	5			1		8
計	28	26	1		3		58

表3 就業歴のある修了生の状況

単位：人

卒業時就業先 現在の就業先	行政 (保健所・市町村)	病院	福祉	学校	その他	就業なし	計
行政・保健師	32	2	1			3	38
行政・看護師		1					1
病院・保健師		5					5
病院・看護師	1	5				2	8
福祉・保健師	1		3				4
福祉・看護師							
ケアマネージャー		1	1				2
看護学校等教員	1		1	1			3
養護教諭				1			1
大学保健室等保健師				1			1
その他・保健師	2	1			8	1	12
その他・看護師	2						2
その他					1	1	2
就業なし	5	3	1	1		1	11
計	44	18	7	4	9	8	90

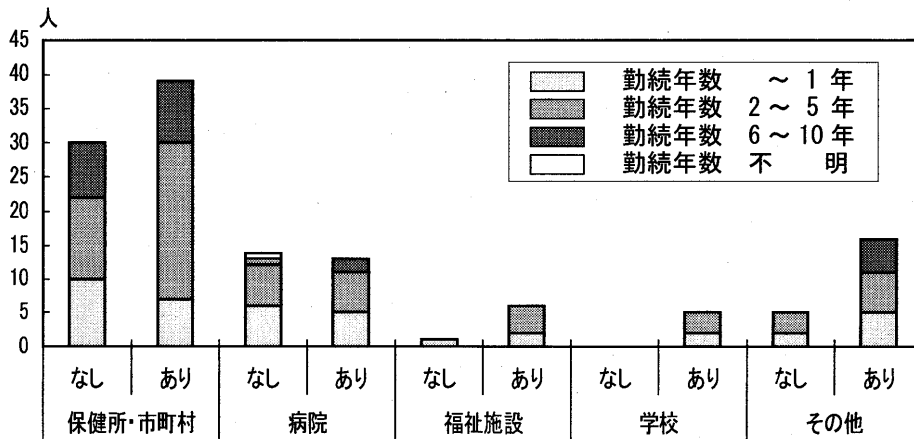


図 就業歴の有無と職種別勤務年数の比較

3 勤務年数 (図)

1) 入学前に就業歴のない修了生の状況

就業先が保健所・市町村のものうち勤続年数1年以下の者が8名、2~5年の者が11名、6~10年の者が7名であった。

就業先が病院であったものは勤続年数1年以下の者が9名、2~5年の者が10名、6~10年の者が2名であった。また不明が2名であった。

2) 入学前に就業歴をもつ修了生の状況

就業先が保健所・市町村のものうち勤続年数1年以下の者が8名、2~5年の者が20名、6~10年の者が11名であった。

就業先が病院であったものうち勤続年数1年以下の者が5名、2~5年の者が7名、6~10年の者が2名であった。また不明の者が2名であった。

4 平成11年から15年の就業状況の推移 (表4)

保健師学校養成所卒業生就業状況調査票からは以下の結果が得られた。すなわち、平成11年3月末は39名が就業しており、その内訳は市町村保健師が21名(53.8%)、病院保健師が1名、老人保健施設の保健師が1名、その他保健師3名で保健師として就業したものは60%以上であった。病院看護師は8名(20.5%)助産師1名、看護学校教員1名、その他3名であった。保健師として就業したものは減少し、平成15年3月末は39名中保健師として就業したものは市町村3名、学校1名、病院2名、その他1名の合計7名(17.9%)であった。看護師としての就業は26名(66.7%)であった。

表4 修了生の就業状況年次推移

単位：人

修了年 職種	行政 保健師	病院 保健師	福祉 保健師	学校 保健師	その他 保健師	看護師	助産師	養護教諭	看護師学 校教員	進学	その他	計
H 11	21	2	1		3	8	1		1		3	40
H 12	19		2		3	13			1		2	40
H 13	14			1	1	19					5	40
H 14	5	1			2	20					12	40
H 15	3	2		1	1	26		2			4	39

IV 考 察

平成9年度厚生科学研究報告書「これからの行政組織における保健婦（士）活動のあり方に関する研究Ⅱ」（湯澤布矢子ら，1998）の新たな保健福祉行政を担う保健婦の活動の項で以下のように述べている。「また，現在，福祉の領域で活動する保健婦の活動内容は，福祉サービス利用者の実態把握，相談業務（窓口業務，健康相談，介護相談など），ホームヘルパーなどへの指導・助言，介護教室等などの開催，ケア・コーディネーション，保健・医療・福祉関係機関との連絡調整，『高齢者サービス調整チーム』への参画などであり，実態把握，相談，教育，連絡調整が主なものとなっている。今後さらに取り組みたい活動としては，地域全体の課題の明確化，財政関係も含めての事業の企画・運営への参画，住民の要望する事業の企画・実施，健康増進活動の企画，十分に福祉制度の詳細を理解した上でのケア・コーディネーション，必要なサービスを施策化するための働きかけなどである」。また，金川（2003）は以下のように述べている。「一方，高齢者人口の増加や疾病構造の変化，医療費の増加，社会的入院への対応策などとも関連しながら，在宅での医療や看護・介護のニーズの高まりから，在宅，在宅看護の供給体制の整備も徐々に進められ，その活動が活発になってきている。なかでも，訪問看護ステーションの設置数は図に示すように，最近多くなっており，在宅看護の基盤となる看護学の体系づけが必要である。また，働く労働者や児童・生徒の健康支援のあり方についても，各々に特徴があり，産業看護や学校保健として独自の活動が展開されているが，さらなる体系づけが必要と思える。」

本学専攻科は看護師として勤務経験をしてきた者が多く，入学前の勤務年数を見ると2～5年が最も多

かった（表1）。入学時の面接において，多くの受験生は「入退院を繰り返す生活習慣病患者や，在宅療養へ移行する患者に対し，地域で看護活動を行いたい」という動機を述べた。表3に見られるように，就業歴をもつ修了生は保健所・市町村に限らず，病院や産業，福祉へと多岐にわたって就職していた。すなわち，福祉や病院ではケアマネージャーとして活動している修了生が2名おり，看護学校や看護大学，介護福祉教育の教員も3名いた。表2の就業歴をもたないものに比べて，入学前の就業経験を生かし，地域看護学を学び，個人に対する援助活動から集団・地域全体を対象と考える能力や予防の視点などを獲得して，多様な看護活動を展開していると考えられる。

表4に示すとおり，保健所・市町村保健師として就業するものが減少している。これは新規採用の人数が少なく，就職を希望しても採用試験が難関で，受験しても合格しない学生が多いのが現状である。保健所・市町村の保健師業務は多忙であり，増員を望むところであるが，今後もこの状況が続くことは予想され，保健師として活動できる領域の幅を広げる必要がある。

謝 辞

ご指導いただきました増田客員教授に厚く感謝いたします。また，あたたかく見守り励ましていただきました堺学長に感謝いたします。

引用文献

- 金川克子：日本地域看護学会の発展と今後の課題，保健の科学45：316-320，2003
 湯澤布矢子ら：これからの行政組織における保健婦（士）活動のあり方に関する研究Ⅱ，平成9年度厚生科学研究報告書，1998
 全国保健婦・士教育機関協議会：全国保健婦・士教育機関協議会20年のあゆみ，2001